

こんにちは。104期の市川です。現在メルボルン大学トリニティ・カレッジで勉強をしています。新たな学校生活が始まって半年以上が経ちますので、今どんな勉強をしているかをお知らせします。興味を持ってくれている後輩のみなさんにどんなことをしているか知ってもらいたいです。



まずはトリニティ名物の HOI (History of Ideas) ですが、ベッカリーアの『犯罪と刑罰』を読んで、1500 words のエッセイを書きました。今回はリサーチエッセイで、日本語でも嫌になる程の分量を読みました。テーマは「彼の刑罰、拷問の考え方にどれだけ啓蒙主義的考えが含まれているか」で、啓蒙主義という思想を分析しながらのエッセイでした。読むものが多すぎて読み終えたら最初に何が書いてあったか忘れちゃうくらいでしたw これだから時間がかかるのかな？



それからナショナリズムに関するディベートをしました。

授業は西欧列強の植民地支配の話から始まったのですが、次第に日本の植民地の話に移っていきました。先生は僕が日本人であることを知っていて日本の話を深掘りします。自分の国の歴史を話すことは難しく、英語力だけでなく他国への配慮、当時の日本の立場などを理解する必要がありました。トリニティではアジアから来ている人が多く、日本が植民地にしていた国から来ている人がいます。

その中に自分の国は日本に植民地にされましたと言った人がいました。

正直なところ、僕はこの時なんて答えていいのかわからず黙ってしまいました。今でもあの時なんていうのが正解だったのかはわかりません。

それでも先生は日本の話を続けました。

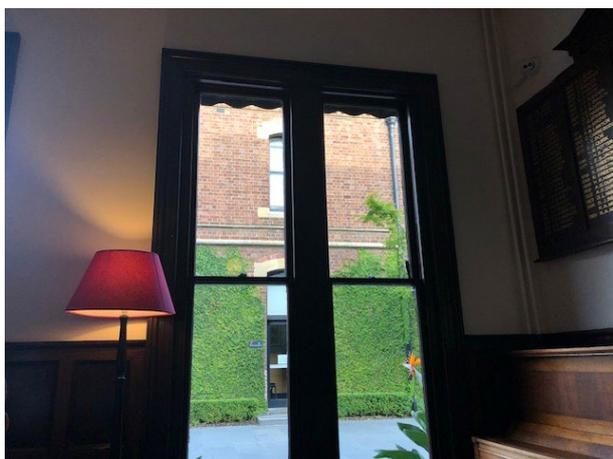
徐々に僕も議論に参加しましたが、とても複雑な気持ちでした。

謝った方がいいのだろうか？ 日本のその時の立場を訴えた方がいいのだろうか？ 一つの事件に対して加害者と被害者の視点によって見方が変わるのには明らかであり、どちらの視点が正しいかは僕にはまだわかりません。そんな中で言葉を選びながら、先生との会話を通じて真実を探っていく授業は僕にとってとても深いものになりました。僕は今まで日本が植民地にした国についてざっくりとしか知りませんでした。日本が植民地にした土地を全て言えと言われたら分かりませんし、それがいつの出来事かと言われればもっと分かりません。ですが彼らは何年に植民地にされ何年に独立



したのかをはっきりと覚えています。

今の僕の意見としては謝るところまではいかずとも、必ず覚えておかなければならない過去なのだと思います。理解が深まればまた考えが変わるかもしれませんが、今僕にできる最大限の解釈をしたつもりです。HOI はきわどい解釈を要求してきますが、それが世界の現実なのかなと感じました。日本の過去の戦争責任について追及されたのは事実であり、それに対して僕が複雑な感情を抱いたのは事実です。しかしながら、彼らには彼らの意見があり、偏った見方だけでなくさまざまな国の見方が加わったことは僕にとっての大きな学びであり、進歩だと感じました。僕は日本で通常の大学生生活を送っていたらこのような学びに気付かされることはなかったと思います。確かに日本でも戦争について特集が組まれたりすることがありますが、それらのほとんどが日本人によって取材をされ日本人によって編集されています。みなさんはそれが本当の「生の意見なのだろうか。」と考えたことはありますか？



テレビで放送されていることを「へーそんなことがあったのか。かわいそうだ。」と受け流していませんか？ 実際はもっともっと複雑なことです。日本が戦争によって被害を受けたことを学ぶだけでなく、日本が戦争によって被害を与えたという事実も学ぶ必要があります。そしてより重要なことのように感じます。海外の大学は日本とは比べ物にならないほどに人種が混ざっており、それぞれの国について議論することは海外で学ぶことの意義だと思いました。

Literature (文学) では“[We have always lived in the castle.](#)”という小説を読んで、家族と村人にとっての恐怖について書くという抽象度の高い課題を扱いました。Apple bookなどで読めるので、読みたいという方はぜひ。エッセイは同じく 1500 words だったのですが、入れたい情報が多すぎてまとめるのが大変でした。EAP の先生がいつも言っている「dense なエッセイ」は難しいですね。日本語でもまともに小説を読んだことがないのに、英語で読むなんて...。言語技術の小説、もっとちゃんと読んでおけばよかった...

このあと、この小説の続きを自分達で考えて劇をやりました。一週間で準備をしなければならないという超過密スケジュールで、他にも HOI と EAP (English for Academic Purposes: 学術英語) の debate, Math2, Drama のテストがあったので本当にきつかったですが、知的な刺激に溢れていて楽しかったです。

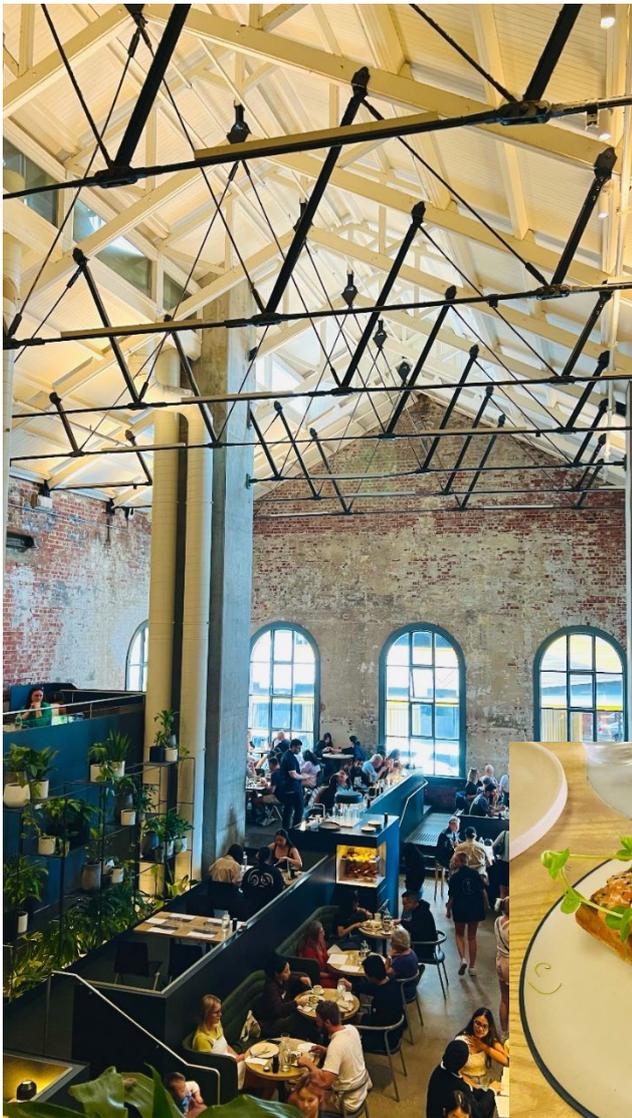
Drama (演劇) では4人グループで5,6分の劇を一から作り上げるというものでしたが、まあグループのメンバーの集まりが悪いこと、悪いことw



時間通りに来ないと減点されるのを知っていて来ないので、そのメンタルの強さは尊敬です w それでもみんな最後にはバッチリ仕上げてくるので、要領のよさはさすが…。Trinity の学生は本当に要領がよく、なんでも卒なくこなします。要領の悪い市川君にはとても痛いです w みなさんも要領のよさは磨いておきましょうネ！

Math1 (数学) では高校 1~3 年の内容を一年で復習します。時間がないのでほぼ毎週単元が変わっていきます。独学ではあるものの数 3 の内容までは勉強したのですが、3 週間に 1 回ほど見たこともないトピックが出てきます。これがなかなか強敵です。全体の難易度は、日本の標準からやや難ほどだと思います。物理との融合問題のような実生活に沿った出題が多いので、そちらは苦戦しています。

Math2 (数学) の授業は完全に高校数学を超えて大学数学のレベルだと思います。今回のテストは統計学がメインでした。やっぱり統計学は楽しいです。僕に向いてるのかもしれませんが w 知識を補うため YouTube で勉強したりもしました。より詳しい解説や実生活への応用なども YouTube にはあるので役に立ちます。そういう横に広い勉強が必要ですね。



Accounting (会計学) では、1 学期に会計方式を一通り勉強したので、今学期は企業の分析をやっています。楽しいかというところ...w Accounting のエッセイは自分が一つビジネスを始めるとして、どのように運営をするかという問題でした。お店を出すにあたってシティの rent などを自分で調べる必要があり、面倒な課題でした。

勉強の話ばかりでは息が詰まるので、最後はカフェの話をして終わりたいと思います。

[Higher Ground](#) というカフェに行ってきました。とても洗練された人気店で、朝から行列ができていました。味は、カフェというよりフレンチを食べているようでした！ 大満足！ メルボルンのカフェはお

洒落な店が多く、自然と僕もオシャレしなくちゃって思ってしまう♪ 元イギリス領ということで casual と formal の使い分けは大事ですね。オーストラリアだからといっても、どこでも海パン OK ってわけではありません w



ざっくりと海外進学の日常をお伝えしましたが、後輩のみなさんにも興味を持ってもらえたら嬉しいです。何かご質問がありましたら、なんでも聞いてください！ 話のネタはつきませんから。国際交流・多言語教育センターの松本先生が窓口になってくれます。海外に少しでも興味がある人は松本先生に話しかけてみては?? 夢への選択肢が増えること間違いなしです！（怖くないですよw）

